



2015年2月24日(火)から3月6日(金)まで、福岡にてAPRICOT-APAN 2015が開催されました。日本では10年ぶりとなるAPRICOT 2015/APNIC 39と同時に、9年ぶりとなるAPAN 39との併催となりました。APRICOTとAPANが併催されるのは、2011年の香港以来2回目です。

海外主催組織であるAPIA (Asia Pacific Internet Association) の速報によると、54の国と地域から835名が参加したそうです。近年、APRICOT (Asia Pacific Regional Internet Conference on Operational Technologies) の参加者数は600~700名ほどであることが多く、今回は例年より多くの方が参加しました。これはAPAN 39との同時開催だったためと考えられます。

本稿では、このAPRICOT-APANの開催概要についてご報告するとともに、日本実行委員会のお1人である石田慶樹氏、会場ネットワークを担当された谷崎文義氏および高田美紀氏、APAN (Asia Pacific Advanced Network) 主催者側である北村泰一氏のレポートを元に、カンファレンスの様子をお伝えします。

関連記事 「P.29 APRICOT 2015におけるAPNIC 39カンファレンス報告」

APRICOT-APAN 2015概要報告

10年ぶりの日本開催とAPAN会合との同時開催

今回のAPRICOT/APNICカンファレンスには、今回ならではの2つの特徴がありました。

1点目は、何と言っても日本で開催されたことです。APRICOT/APNICカンファレンスはアジア太平洋地域内で定期的に、開催地を変えながら行われている会合です。前回の日本開催は2005年、京都でのAPRICOT 2005ですから、実に10年ぶりにAPRICOTが日本にやってきたこととなります。

もう一つは、APAN会合との同時開催です。APANはアジア太平洋地域における、学術ネットワークプロジェクトの相互接続を調整する団体です。研修成果の発表などを目的に、APRICOTと同様にアジア太平洋の各国・各地域で定期的に会合を開いています。開催頻度は年に2回、そのうち毎年1月下旬から3月上旬の時期に行われている会合が、APRICOTの開催時期と近いことなどから、2011年に香港で初めて共同開催され、過去最高の約1,200名の参加者を集めました。4年経った今でも、そのときの盛り上がり関係者間で話題になることは多く、まさに「伝説の会合」となりました。

香港の成功に刺激を受け、日本でもAPRICOT/APNICカンファレンスとAPAN会合の共同開催「APRICOT-APAN 2015」を実現すべく、JPNICを含む関係者が準備を進めてきました。

開催形態: ワークショップとカンファレンス

APRICOT-APAN 2015は、大きく前半のワークショップと後半

のカンファレンスに分かれます。

2月28日(土)までのワークショップは、JR博多駅の駅ビル内にあるJR博多シティ会議室で行われました。会議室を一步出るとそこは数年前にできた駅ビルのレストラン街、1階下にはシネコンもあり、参加者は誘惑と戦うのが大変だったかもしれません。DNS/DNSSEC、Advanced BGP、セキュリティなど五つのクラスが開講され、1クラス20名前後の少人数制で、参加者が自ら持ち込んだPCを使用してのハンズオンなどが行われました。

3月2日(月)からのカンファレンスは、博多駅からバスで約10分の福岡国際会議場に会場が移ります。ここからは参加者も大きく増え、5階建ての施設を全館貸し切った会合が行われました。会場のすぐ裏は博多湾で、晴れた日には海がキラキラと輝く風景が見え、一方で天気が悪い日には海風が冷たく、福岡が日本海側に位置することを実感させられました。

APRICOTとAPANの共同セッション: Opening Ceremony & PlenaryとClosing Plenary

カンファレンス期間中はAPRICOT 2015、APAN 39、APNIC 39のセッションが並行して複数、多いときには9セッションも走っていて、参加者は自分の興味に応じて各セッション会場に散らばっていました。しかしながら一つのセッションしか開催されない、APRICOT-APAN 2015の参加者が一つの会場に集まる時間帯が2回ありました。それが次にご紹介する二つのPlenary(全体会合)です。



● オープニングセレモニーの様子

◇ Opening Ceremony & Plenary

1回目はカンファレンス初日(3月2日)の「Opening Ceremony & Plenary」です。

はじめに各主催団体代表の挨拶が行われました。APANは理事会議長のSureswaran Ramadass氏、APRICOTの主催団体であるAPIAは理事会議長のPhilip Smith氏、APNICは事務局長のPaul Wilson氏、そして最後にホストとしてAPRICOT-APAN 2015日本実行委員会委員長の細谷僚一氏が登壇しました。4人全員が共通して触れたのは、またAPRICOTとAPANを共同開催できる喜び、そしてこれから始まるカンファレンスへの期待感でした。Smith氏からは、今回が20回目のAPRICOTであること、そして10回目のAPRICOTも日本開催(APRICOT 2005、京都)だったという不思議な巡り合わせが紹介されました。10年も先のことですが、「もしかしたら30回目のAPRICOTも!?!」と思わずにはいられない、日本からの参加者も多かったのではないのでしょうか。

その後はハワイ大学のDavid Lassner氏とICANNのElise Gerich氏による基調講演が行われました。Lassner氏からは太平洋の島々における研究ネットワークに関する活動が紹介され、Gerich氏はインターネット資源管理の仕組みが作られた1980年代の出来事を自らの経験を交えて語りました。Gerich氏の言葉を借りると、Lassner氏が未来を語り、Gerich氏が過去を振り返るという、興味深い組み合わせとなった2本の基調講演でした。

◇ Closing Plenary

カンファレンス最終日である木曜日(3月5日)には、Closing Plenaryが行われ、再び全参加者が大きなホールに集まりました。招待講演では、東京大学の早野龍吾教授が、東日本大震災および福島第一原発の事故から私たちが何を学んだのかを解説すると共に、原子物理学者の立場から、心配すべきは事故の科学的な影響よりも心理的な影響であることが示されました。

最後には再び各主催団体からの挨拶がありました。Sureswaran Ramadass氏は、設立から20年が経ちメンバーが増えた今でも変わらないAPANの精神を「APAN is you.」というフレーズで表現し、APNIC理事会の議長でJPNICの前村昌紀は「福岡にまたきんしゃい!」という言葉で会を締めくくりました。

レセプションも共同で

Plenary以外にもう一つ、APRICOTとAPANが合同で行ったのがレセプションです。カンファレンス初日と最終日の夜に、それぞれ福岡国際会議場とホテルオークラ福岡で行われました。

どちらも多くの方が参加し、特に初日は人と人の間をすり抜けるようにしないと会場内を移動できないほどの賑わいでした。会の中ほどでは、博多の伝統芸能である、和太鼓と獅子舞、和楽器の演奏、博多独楽(コマ)、博多芸妓の余興が行われました。特に博多独楽は外国人参加者の心を捉えたようで、カメラやスマートフォン、タブレットを構えてステージ付近に集まった方々は最後までその場を離れず、最後にロープを伝ったコマがくす玉を割った瞬間には大きな歓声が上がりました。会の様子は、APNICのBlogに写真付きで紹介されています。

APRICOT 2015: Arigato Fukuoka!

<http://blog.apnic.net/2015/03/09/apricot-2015-arigato-fukuoka/>

APRICOT-APAN 2015を振り返って

会期中は「前回参加したAPRICOTよりも人が多いな」くらいにしか感じていなかったAPRICOTとAPAN会合の共同開催ですが、最終日に初めてAPAN側のセッション(APAN General Assembly)に参加してみても良かったことがありました。

JPNICは期間中、APRICOT/APNICカンファレンスのセッションが開催される会場付近にブースを出していましたが、そこに来てくださった方、熱心に話を聞いてくださった方、パネルをご覧になっていた方、写真を撮らせていただいた方、パンフレットを受け取ってくださった方の中にはAPANの方々(=共同開催でなければ出会えなかった方々)も、実は多くいらっしゃったということです。私が想像していた以上に、会場内ではAPRICOT/APNICカンファレンス側とAPAN側の間で、人の行き来は活発に行われていたようです。それに最後の最後で気付いたことを少しもったいなく感じ、時間を巻き戻したいと思うと同時に、APRICOT-APAN 2015の大きさをあらためて感じた最終日でした。

(JPNIC インターネット推進部 坂口康子)



「福岡へきんしゃい」開催までの道

■ APRICOT-APAN 2015への道

2011年2月末から3月にかけて香港において、APRICOTとAPANというアジア太平洋地域のインターネットに関わる二つの国際会議が初めて共同開催されました。その前後からAPRICOTの日本の常連参加者の間で、そろそろAPRICOTを日本で開催してはどうかという話題が出されるようになっていました。その直後に東日本大震災が発生し、その大災害の中でインターネットの有用性は再認識されましたが、一方でアジア太平洋地域における日本の存在感の希薄化を危惧するようになりました。

そのような状況を少しでも好転させ、アジア太平洋地域での日本のプレゼンスを向上させるために、国内の5社が中心となって、APRICOTを日本に招致するために2012年の春ごろより準備を始めました。開催のターゲットとした年はさまざまな調整や準備も考え、2015年としました。また、APRICOTを招致するだけでなく、あわせてAPANとの2回目の共同開催を模索していくこととなりました。開催地もいくつかあった候補の中から福岡に決定し、正式に招致に乗り出すこととなりました。

その後、インターネットマルチフィード株式会社の細谷僚一氏を実行委員長としてオールジャパンの体制を構築し、またJPNICは実行委員会の事務局機能を担当するという形式を整えていきました。また、それぞれの国際会議の主催者であるAPIAやAPANとのコンタクトや協賛企業の勧誘、さらにはイベントそのものの認知度向上のための活動も同時並行的に開始することとなりました。徐々に準備を開始した結果、まもなく主催者それぞれから開催にOKが出ました。

■ APRICOTとAPANとは何か

APRICOTとはその名の通り、アジア太平洋地域のインターネットの運用技術のための国際会議であり、主にインターネット基盤の運用技術に関して議論が交わされています。また、あわせてAPNIC Meetingも開催されるために、資源管理や、直近ではインターネット・ガバナンスに関しても取り上げられています。しかし、それはこのカンファレンスの持つ一面でしかなく、別の一面として、その場でヒューマンリレーションシップが形成され、さまざまなネゴシエーションやコーディネーションが行われています。その中には、もちろん営業活動も含まれます。このため、APRICOTにはアジア太平洋のみならず北米やヨーロッパからも著名な参加者が毎回参加しており、その場で横のつながりを広げていくことで運用にもビジネスにも広がっていきます。

一方のAPANは主に学術系を中心としたものでありますが、インターネットそのものの研究開発ばかりではなく、医学・農業・芸術といった応用分野の研究者も多数参加してWorking Groupを作り、それぞれのWGでの活動も非常に盛んです。特に医療の分野においては遠隔医療のさまざまな実験をAPANの運用してい

るネットワークを介して行い、またこれまではAPANのミーティング中に商用のサービスでは実現できないようなデモも行われてきました。

APRICOT-APANは性格が異なる二つの国際会議を共同で開催する試みであり、2011年に香港で初めて行った際には、共同開催としては大成功という評価となりました。共同で開催するにあたっては、さまざまな調整事項が発生はしますが、一方でアジア太平洋地域のインターネットに関わるさまざまなプレイヤーが一堂に会することにより生まれる相乗効果も期待されていました。これらの環境の中で、APRICOT、APANのいずれもしばらく日本で開催されていなかったこともあり、共同開催という提案につながりました。

■ 準備そして会期中

1,000人規模の国際会議では、その準備には数年を要します。まず、当地での実行委員会を組織し、事務局を設置し、予算の目途をつけ、会場を予約し、さらに主催団体との交渉を行うこととなります。それぞれが相互に依存関係があるために、立ち上げ当初には一気呵成に進められるものではなく、それぞれを少しずつ丁寧に進めなければなりません。最初に開催に向けて動き出したのが2011年の秋ごろでしたが、その後、候補となる各地の会議場の空き具合などを確認し、地元からの強力な支援が得られる福岡を主催者へ提案する候補地として選定し、会場の下見を行ったのは2012年の夏のことでした。その後、準備委員会として着実に準備を進めて、実行委員会としての設立は2014年3月のこととなります。福岡での開催のアナウンスは2013年には開始しており、直前の開催となるAPRICOT 2014でも広く宣伝を行いました。ただ、そのAPRICOT 2014がバンコクで開催予定であったものが、タイにおける政情不安の影響を受けて直前になってマレーシア・ペタリンジャヤに開催地が変更となり、それによる多少の混乱を受けて、事前準備を怠りなく行っている福岡開催に対する周囲からの期待も高まりました。そして、直前の台湾・南投でのAPAN 38やオーストラリア・ブリスベンでのAPNIC 38においても実行委員が事前の宣伝を行い、参加への呼びかけを行いました。そのいずれにおいても、期待の高まりを感じるものでありました。

日本実行委員会を中心に国内の準備を着実に進めていきましたが、とりわけ入念な準備を行ったのは会場に提供するネットワークでした。二つの国際会議を共同で行い、しかもそれぞれの要求も異なるものになることが予想できたので、会場ネットワークの構築運用にあたるネットワークチームを構成しました。エンジニアと学生からなる総勢40名強となる大所帯のチームが一丸となって素晴らしいネットワークを構築し、またそれが今後にもつながっていくポテンシャルを有しているものでありました。

今回の会議の開催準備中である2014年4月8日に、ISOCから故平原正樹博士のインターネットの殿堂入りメンバーへの選出が発表されました。平原氏はJNIC (JPNIC) やAPNICの設立に深く関わっており、これらの業績がインターネットのグローバルな成長に顕著な貢献を果たしたということが理由でした。また平原氏は2003年に福岡で開催されたAPAN 13で中心となって働かれておりました。そこで、APRICOT-APAN 2015の開催に合わせて、平原氏に深い有志によるパーティも会期中の3月4日に開催されました。パーティにはご家族を含めて90名弱の参加者があり、またAPNICを含め海外の参加者も多く、氏の幅広い交流関係がうかがえるアットホームなパーティとなりました。



● 故平原氏に送られたインターネットの殿堂入りを記念したメダルと盾

ネットワークチーム活動報告

■ ネットワークチームがめざしたもの

APRICOT-APAN 2015では、会議や参加者をサポートする会場ネットワークを提供するため「APRICOT-APAN 2015ネットワークチーム」が結成され、会場ネットワークに関する一連の作業に従事しました。われわれは『来場者が会期中に快適に過ごせるような会場ネットワーク環境を提供する』ことを目的に、2014年1月初旬から具体的な活動を開始しました。

ネットワークチームは、APRICOT-APAN 2015日本実行委員会が谷崎、高田をチェアとして任命したことからはじまりました。チェア2人はまず、チームの方針を話し合いました。インターネットやネットワークに関する大規模な国際会議が日本で開催されることはまれであることから、日本のエンジニアが持つネットワーク構築運用技術の高品質さを、来場者にアピールする絶好の機会であると考えました。また、次の世代を担うエンジニアの育成、および地方の優れた人材を発掘する場としても、このプロジェクトは重要な役割を果たすことができると考え、これら2点をチームの目標として掲げました。

チームメンバーを集めるため、JANOGメーリングリストへの投稿や実行委員からの働きかけ、九州のインターネットコミュニティへの呼びかけなど、さまざまな形で募集を行いました。最終的にメンバーは九州在住のエンジニアや学生を含め総勢40名強となり、ご協力いただいた企業の皆さまと一体となりプロジェクトを進めました。

■ 今後に向けて

APRICOT、APAN、およびAPNICのミーティングは日本で5年以上開催されていませんでした。今回の開催において登録者数1,000名以上(うち日本人が350名弱)、参加者として報告されている数が54の国と地域から835名となっており、真の国際会議となりました。参加者の声も、内外を問わず非常に好評であったと認識しています。プログラムの中身の作りこみやAPRICOTとAPANの融合、交流の強化などいくつか反省すべき点もありますが、ひとまず成功であったと言えます。ただ、これを一過性の成功に留めるのではなく、今後アジア太平洋地域さらにはグローバルに対する日本の貢献の出発点とすべく関係者一同で気を引き締めて進めたいと考えています。

(日本インターネットエクステンジ株式会社/
JPNIC理事 石田慶樹)

■ ネットワーク構築における課題と対応

設計構築をプロジェクトで進めるにあたって、まず課題になるのはネットワークの規模です。APRICOT-APAN 2015日本実行委員会が目ざす参加者1,000名、またその中の7割程度が海外からの参加者となる見込みでした。日本国内からの参加者が多い会議よりも、多くの無線LANデバイスの持ち込みがあると想定しました。最終的に参加者1人あたり2台の無線LANデバイスが持ち込まれると仮定し、端末数を2,000として無線LANネットワークの設計を行いました。設計の際には、他の会場ネットワークと異なるポイントが3点ありました。

- (1) APRICOTとAPANという性格の異なる二つの国際会議が同時に行われること
- (2) 前半のワークショップと後半の本会議では会場が異なるため、それぞれで設計と設営、開催期間中の運用、撤収が必要なこと
- (3) 関係するスタッフは東京と九州にそれぞれに存在すること

また、APRICOTとAPAN、二つの国際会議から会場ネットワークに求められるものは異なるものでした。参加者が会期中に調べものやメールのやり取り、SNSなどのため利用する無線LANネットワークについては、同じものとさせてもらうことができましたが、APRICOTではWeb配信や会議をサポートする設備のために有線ネットワークが求められました。またAPANでは、APANネットワークを利用したさまざまなデモが行われるため、APANネットワークに高速に接続できる広帯域な環境が求められました。このため、福岡国際会議場でのネットワークでは、APRICOTで使用するネットワークとAPANで使用するネットワークを論理的に分け、2面のネットワークを構築しました。

会期は2週間ありましたが、前半の会場はJR博多シティ、後半は福岡国際会議場と異なる場所でした。二つの会場ネットワークを全く別のものとして設計すると、機材のやりくりや運用が煩雑になると考え、論理設計(VLAN番号やマネジメント用のIPアドレス、機器の設定ポリシー等)の共通化をしたり、機材を使い回せるようにしたりと配慮しました。また、会場の協力により、会場内にある既設ネットワークのUTP配線と光ケーブル配線を会期中借用することができました。これらの結果、設計と構築の工数を大幅に短縮することができました。

当初、二つの会場で設営と撤収を行う必要があるという、手間の面ばかりに注目していましたが、思わぬ効果もありました。福岡国際会議場での大規模なネットワークの構築運用を始める前に、比較的小規模なJR博多シティの構築運用を行えたことが、スタッフの貴重な経験となり、結果的には習熟度を上げそれが大きな自信につながり、福岡国際会議場での運用を助けることになったのです。

設計構築を進めるにあたり、綿密なコミュニケーションを取ることとはとても重要です。しかし、スタッフは東京と九州に分かれており、また各個人を取り巻く状況はさまざまです。このような環境でも密にコミュニケーションを行うために、メーリングリストのみならず、FacebookやGoogleドライブを利用しました。Facebookでは非公開のグループを作成し、掲示板やメッセージでコミュニケーションを取りました。また、設計構築に関わるさまざまな資料はGoogleドライブに保存し、多様な環境から閲覧と編集を可能にしました。

■ 次世代の育成

会期が始まる前の1週間、使用するすべての機材を九州産業大学に集め、本番で使用する環境を実際に構築して確認する事前作業を行いました。この期間のことを「ホットステージ」と呼んでいます。借用した機材の動作チェック、管理のためのラベル貼り、機器の設定、UTPや光ケーブルでのつなぎ込み、提供するすべての環境がきちんと動作しているかどうかの確認試験、また設計に関する議論とドキュメントのアップデートを、会期中に構築運用に関わるスタッフで行いました。ホットステージを進めるにあたってのポイントは、学生の育成です。東京や九州のエンジニアと、九州産業大学や九州工業大学の学生が1:1または1:2程度のチームとなり、一緒に設定したり確認したりする作業にあたってもらいました。実際に自分で手を動かして設定をし、エンジニアと共に確認しトラブルシュートすることで、一つ一つの設定内容や今回のネットワーク設計についての理解が深まり、会期中の運用にスムーズに入ることができました。このようなエンジニアと学生のコラボレーションは、会期中も続きました。ネットワークチームに参加した学生たちは、日頃の大学生活では触れることのできない多数の機器に最初は戸惑いもあったようですが、エンジニアの助けもあり、会期終了時には一人前のエンジニアに成長しました。

■ ネットワークチームによる万全の体制が会議の成功に貢献

両会場での設営と運用、撤収はネットワークチームスタッフ全員で行いました。JR博多シティでは、ワークショップごとに異なる有線/無線LANネットワーク、各種サービスを提供するサーバー群を構築しました。福岡国際会議場では、来場者の生活用無線LANネットワーク、および会期中に行われるさまざまなデモやWeb配信、出展社ブースのための有線LANネットワーク、各種サービスを提供するサーバー群を構築しました。特に福岡国際会議場は会場規模が大きいため、使用する機材が多く設置そのものには時間はかかりましたが、綿密な準備とスタッフの頑張りのおかげで、初日の朝から会場ネットワークが必要な場所においても、無事に運用を開始することができました。

会期中は各種ツールを用いたネットワークの監視と観測を行い、運用状況の確認を行うとともに、不測の事態に備えました。また、来場者のために会場ネットワークに関するサポートを行うネットワークヘルプデスクを開設し、学生を中心に専任のスタッフを配置しました。観測や申告をもとに、両会場とも会期中に無線LANネットワークの細かなチューニングも複数回行いました。特に福岡国際会議場でのオープニングとクローージングでは、多数の人が一つのホールに集うことから、ホール内を複数箇所に分け、それぞれの場所で利用状況を確認するなど監視体制を強化し、安定運用できるように努めました。その結果、両会場のネットワークとも大きなトラブルはなく、無事に会期を終えることができました。

■ 終わりに

会期が終了しても、プロジェクトは終わりません。借用した物品の返却、APRICOT-APAN 2015会場ネットワークの運営に伴い、会場外のさまざまな場所で変更されたさまざまな設定の後片付けなど、会期終了後も作業は続きました。

最後に、このプロジェクトは、多くの人々の協力や助言なくして遂行することができませんでした。APRICOT-APAN 2015会場ネットワークに関わったすべての人々に、厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

(APRICOT-APAN 2015 ネットワークチーム チェア
谷崎文義(高田美紀)



● ネットワークチームの集合写真(高田氏提供)

column

APANサイドから見たAPRICOT-APAN

APAN (<http://www.apan.net>) とは

APANは、年2回大会を開催し、ネットワーク技術から広範囲なアプリケーション技術に至るまで、学術ネットワーク利用を中心にした研究活動についての会議を行っています。

APRICOTおよびAPANの様子

APRICOT-APAN 2011では、APAN開催階とAPRICOT開催階が完全に分かれてしまったため、「間違った会議場に入場する」ということはありませんでした。今回は、階を厳格には分けられない方針にしたため、APANセッションにもAPRICOT参加者の方の参加が多く見られました。

APRICOTは、アジア太平洋地域の会議でありながら、アメリカ的な討論型なのに対して、APANは典型的なアジア型の、あまり質問の出ない会議型ではありますが、混ざったことにより、従来と雰囲気違ったものになりました。

特に、今、注目されている技術、SDN (Software Defined Network) については、APRICOT側ではパネルセッション、APAN側で作業部会のワークショップとしてそれぞれ行われ、二つのセッションに双方からの参加者が見られ、積極的な議論が行われました。

今回の会合では、APRICOT-APANにおいては、研究ネットワーク系会議以外にもNANOGなどでもサービスが行われるようになったeduroam (<http://www.eduroam.jp>) のサービスが提供されました。eduroamはその名の通り、教育機関関係者が世界中どこにいても、自分の組織で発行されたIDとパスワードを用いてワイヤレスネットワークにアクセスできるサービスです。

APANでは、前回のAPAN南投会合で、「Task Force (時限作業部会)」という枠組みを設置することが決定され、今回、ID・認証連携に関するTask Force会合が行われました。また「地球観測」では、このところ積極的に進められている地球上の明かり、あるいは、炎などをその位置がわかる高解像度画像による撮影およびフィルター処理により、地球上の経済状態、あるいは、紛争状態が把握できることなどが発表されました。

医療作業部会は、日本開催でもあることから、日本の医療機関に積極的に参加していただき、産婦人科系の活動などの発表が行われました。また、インドネシア離島間を接続しての口腔外科医療の活動も紹介されました。農業作業部会では、農産物育成・収穫に関して必要な気象データ、農地

環境データ、市場データなどの伝送を的確な手法で行うこと、特に、インフラの未整備地域に関しての手法などが話し合われました。

APRICOTの目玉セッションであるPeering Forumでは、学術ネットワーク参加者が、peeringの意味を学ぶ良い機会となりました。現在、APANでは、学術ネットワーク構造設計を積極的に話し合うセッションはありません。このため、APAN関係者は「peering対象機関は、もはやISPだけではなく、コンテンツ関係サービスも含まれる」ことを学ぶことができたと思います。また、それにより、利用者へのサービス効率が増えることを知ることができたのではないかと思います。

APRICOT-APAN 2011での会議終了後のアンケートでは、「想定もしない古い友人、あるいは、インターネット関係者と会う機会となった」と評価されていましたが、今回も、多くの方が、自国の意外な関係者と福岡で会い、その場で打ち合わせが行っていたようで、運営側からは、してやったりと言える場の設定ができました。

APRICOTワークショップへのAPAN地域からの参加

なお3月1日から始まった会議の前の週には、APRICOTワークショップが行われていました。この内容が通常の人材育成コースを大幅に超える高度なものであることから、APANの協力団体の一つTEIN (Trans Eurasia Information Network, <http://www.tein4.net>) の東南アジア、南アジア、中央アジアの接続機関からも参加者があり、その内容に感銘を受けていました。

次のAPRICOT-APANに向けて

会議期間中、APIA (Asia Pacific Internet Association)、APNIC、APANの理事クラスメンバーによる合同会議も行われ、今後も積極的にAPRICOT-APANあるいはAPNIC-APANを共同開催しようということが合意されました。

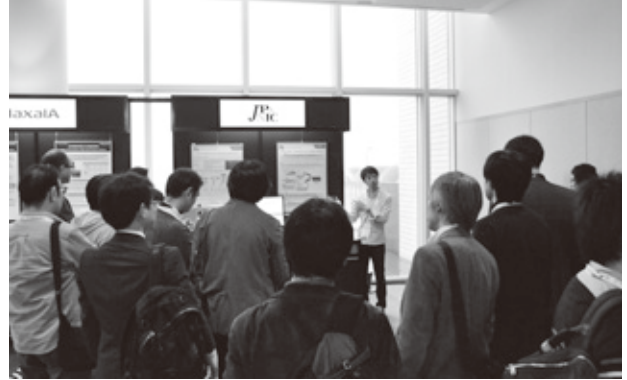
今回のAPANは、従来のAPAN会合とは異なり、商用側の持つ高度な運用技術を目の当たりにする良い機会となりました。また、APAN側からも、インターネット利用の将来像の一部を示せたのではないかと思います。次のAPRICOT-APANがいつ、どこで行われるかわかりませんが、今回の経験を伝え、さらに、双方のコミュニティの刺激になるような会議にしてほしいと思います。

(APAN/独立行政法人 情報通信研究機構 北村泰一)

今後の予定

次回のAPRICOT、APNICカンファレンス、APAN会合はそれぞれ次の日程で開催されます。

- [APRICOT 2016] 2016年2月16日～26日、オークランド
(ニュージーランド)
- [APNIC 40] 2015年9月3日～10日、ジャカルタ(インド
ネシア)
- [APAN 40] 2015年8月10日～14日、クアラルンプール
(マレーシア)



● RPKIの展示を中心としたJPNICのブースにも、たくさんの方に足を運んでいただきました

APRICOT-APAN 2015 開催概要

- 【日程】2015年2月24日(火)から3月6日(金)まで
- 【会場】[ワークショップ(2月28日(土)まで)]
JR博多シティ
<http://www.jrhakatacity-eventspace.jp/access/>
[カンファレンス(3月2日(月)から)]
福岡国際会議場
<http://www.marinemesse.or.jp/congress/access/>
- 【対象者】ネットワーク運用に携わる技術者
アジア各国のインターネットインフラに興味をお持ちの方
アドレスポリシー策定・資源管理に興味を持つ方
- 【内容】ワークショップ、チュートリアル、カンファレンス、ワーキンググループセッション、併設展示・デモ、レセプション、ソーシャルイベント
- 【主催】APRICOT-APAN 2015 日本実行委員会
- 【共催】国立情報学研究所(NII)
- 【後援】
経済産業省/総務省/農林水産省/文部科学省/福岡県/福岡市/IPv6普及・高度化推進協議会(v6pc)/一般財団法人インターネット協会(IAJapan)/Internet Society Japan Chapter(ISOC-JP)/HD-PLC アライアンス/仮想化インフラストラクチャ・オペレーターズグループ(VIOPS)/九州インターネットプロジェクト(QBP)/九州ギガポッププロジェクト(QGPOP)/九州産業大学/九州大学 情報基盤研究開発センター/一般社団法人クラウド利用促進機構(CUPA)/Cyber Kansai Project(CKP)/一般社団法人JPCERTコーディネーションセンター(JPCERT/CC)/情報処理学会 インターネット運用研究会(IOT研究会)/電子情報通信学会インターネットアーキテクチャ研究専門委員会(IEICE IA研究専門委員会)/一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)/日本学術振興会産学協力研究委員会インターネット技術第163委員会(ITRC)/日本シーサート協議会(NCA)/一般財団法人

日本情報経済社会推進協会(JIPDEC)/日本DNSオペレーターズグループ(DNSOPS.JP)/日本ネットワーク・オペレーターズ・グループ(JANOG)/特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA)/日本UNIXユーザ会(jus)/WIDEプロジェクト(WIDE)

【協賛】

株式会社インターネットイニシアティブ/インターネットマルチフィード株式会社/NTTコミュニケーションズ株式会社/ソフトバンクBB株式会社/日本インターネットエクスチェンジ株式会社/Microsoft Corporation/株式会社日本レジストリサービス/アーバーネットワークス/IPv4 Market Group/アラクサラネットワークス株式会社/Alcatel-Lucent/A10ネットワークス株式会社/NECプラットフォームズ株式会社/NTTアドバンステクノロジ株式会社/Curvature Solutions Pte Ltd./KDDI株式会社/独立行政法人情報通信研究機構/セイコーソリューションズ株式会社/Digital Japan Investment Management G.K./TeliaSonera/TOPCON CORPORATION/株式会社デンソー/日商エレクトロニクス株式会社/日本電信電話株式会社/NETKA SYSTEM.COM/Nominum/BTI Systems/Vidyo Japan.Inc./Hong Kong Broadband Network Ltd./三井情報株式会社/九州通信ネットワーク株式会社/独立行政法人産業技術総合研究所/ジュニパーネットワークス株式会社/株式会社DMM.comラボ/日本ラドウェア株式会社/ブロードコムコミュニケーションズシステムズ株式会社/楽天株式会社/Google/ICANN/TEIN/DotAsia/Equinix/Internet Society/NSRC/一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター

【URL】

<http://jp.apricot-apan.asia/> (日本語)
<https://2015.apricot.net/> (英語)

